

平成25年度NGO職員受入れ研修プログラム アンケート結果

平成26年4月17日

民間援助連携室

【評価方法】

a:非常に有益だった b:有益だった c:有益でなかった d:どちらともいえない e:受講していない

1. 研修内容の有益性について

～各プログラムの評価一覧～

(単位/人)

プログラム内容	a	b	c	d	e
(1)外務省組織説明	4	6	0	0	0
(2)「民連室の業務」ブリーフィング	8	2	0	0	0
(3)局幹部との意見交換(ランチミーティング)	5	4	0	1	0
(4)「ODA総論」ブリーフィング	4	6	0	0	0
(5)「ODA評価」ブリーフィング	4	5	0	1	0
(6)「ODA広報」ブリーフィング	5	5	0	0	0
(7)「官民連携」ブリーフィング	5	5	0	0	0
(8)「緊急人道支援」ブリーフィング	4	6	0	0	0
(9)「JICAの業務・技術協力」ブリーフィング	5	5	0	0	0
(10)「個別」ブリーフィング	6	2	0	1	1
(11)「分野別アプローチ・MDGs」ブリーフィング	3	5	0	2	0
(12)模擬案件選定会議	7	3	0	0	0
(13)民連室員との意見交換	6	3	0	1	0

～各プログラムに関し、上記評価を選んだ理由等～

(1)外務省組織説明

- ・ 大変包括的で、組織全体の流れが理解できたのみならず、全体で何人の職員がいると思いますか？など説明方法が身近な点から入っており、興味深く理解しました。
- ・ 認識していたこと以上の活動や新たな事業に関して知ることができました。
- ・ これまであまりよく知らない組織の内側がみれてよかった。
- ・ 改めて組織の概要がよく分かった。
- ・ 国協局にこれほど多くの課室があるとは知らなかった。
- ・ 外務省の全体像から、ODA担当の部局まで、組織の仕組みがわかりやすかったです。
- ・ 「外務省」という組織について、これまで深く調べたこと、聞いたことがなく人数や取り組み等について、詳細を知ることができた。
- ・ 日本の外交体制についてなど、初めて知ることも多く大変勉強になった。

- ・ 組織全体について知ることができた。国際協力局以外のところについては、もう少し時間が必要かと思った(今回の研修テーマでは十分ですが)。
- ・ 外務省自体についてほとんど知識がなかったため、どんな組織があり、どのように業務を分担されているのかが分かった。

(2)「民連室の業務」ブリーフィング

- ・ 「民間」という言葉が付いていることで業務のあり方、取り組み方、様々な事業が関係していることを知ることができた。国際協力に対してNGOやODAをいかに知ってもらうかを考えていらっしゃる生の声を聴くことができた。
- ・ 資料がわかりやすく良かった(とても細かい点も説明してあり、よかった)。
- ・ 特にN連の申請書についてのブリーフィングがためになった。
- ・ 実際にお世話になっている事業のノウハウを知り、点が線のように繋がり、理解が深まりました。
- ・ ふだん、JPFとしての関わりがほとんどを占める中、NGOの育成という観点については、JPFも一部研修事業などを行っており、大変参考になった。
- ・ 民連室の業務を体系的に知ることができた。
- ・ 当団体で日頃活用させていただいているN連以外にも様々なNGOに対するスキームの紹介をしていただき、今後の団体活動の上で参考になりました。
- ・ 具体的な業務内容と事業について知ることができた。
- ・ 断片的に知識はあったが、改めて全体的に概要を網羅できたことで、より理解を深めることができた。
- ・ 部分的知識を補完できてよかったです。

(3)局幹部との意見交換(ランチミーティング)

- ・ 私が質問させていただいた事項について、詳しい返答をいただけたこと、和田大使が考えられている政府の方針と、今後の外務省とNGOとの関係について伺うことができたため。
- ・ 実際の方針や活動に関わられている方のお話をきくことができ、“国”という感覚で物事を考えることができる貴重な機会でした。
- ・ NGO担当大使の方のみならず、室長、首席にも同席いただけたことで、また、全員の参加者からの質問、コメントにも触れていただき、直接的に外務省という組織を知る上で大変有意義かつ興味深かったです。
- ・ ざっくばらんにお話できたのがよかった。
- ・ 防災への取り組みなど大きな質問にも答えていただいた。
- ・ みなさん、物腰がやわらかく、質問しやすかった。
- ・ USAIOとJICA、N連との比較のお話がとても新鮮でした。
- ・ 外務省、民連室の考え方を知ることができた。
- ・ ランチなのでもう少し近い距離にいただければ会話しやすかったと思います。
- ・ お昼を食べながら…との意見交換だったので少し落ち着かない状態だったような気がします。他の団体さんの紹介もじっくり聴きたかったので別枠であった方がよいとも思えた。

(4)「ODA総論」ブリーフィング

- ・ 日本のODAをスキーム別に俯瞰して知識を得ることができた。
- ・ 漠然と認識しているのみであったのが、はっきりと分かったため、また円借款についてその成果は全く知らなかったのが、興味深かった。
- ・ ODAについて、改めて詳しく説明していただき、より理解を深めることができた。さらに、今日の日本のODAの現状を表した様々なデータを使用されていたことで、現在のODAが他国と比較してどのような状況かを知ることができ、興味深かった。
- ・ ODAの全体像がわかった。
- ・ 日頃活用させていただいているN連も含めた、様々なスキームが全体となってどのようなODAを構成しているのか、マクロな視点が持てたと思います。特に日本のODAが他国と比べ随分特徴的で、興味深いと思いました。
- ・ 開発協力の種類、特徴や影響について、耳にしているにもかかわらず知らない内容を聴くことができた。日本人として日本国として暮らしている中で「平和と安全」が確保されていると思いつつあることがたまにあるので、忘れてはいけない内容と思えた。
- ・ これまで知らなかった他のODA事業についても説明されており、おもしろかった。
- ・ 新しい知識を消化するには少し時間がかかるかと思いますが、ここで得た知識をまたアウトプットしていきたいと思います。

(5)「ODA評価」ブリーフィング

- ・ 評価を実際に行うことや、数値設定といった具体的なところまでは、短時間のブリーフィングではなかなかイメージしづらいですが、参考資料をいろいろと紹介いただいたので、今後につなげられたらと思っています。
- ・ 評価プロセスについてももう少し具体的にお聞きしたかったです。流れはわかったのですが実際のイメージがわかりませんでした。
- ・ 評価をする際に計画がしっかりとしていなければ評価をすることが難しいということを知り、当協会の活動にあてはめて考えていきたいです。
- ・ PDCAサイクルの中で「P」が非常に重要であること、それが「C」にも必然的につながってくるのが印象深かった。評価をもらうことは説得力がある開発項目に大きく関係するようにも思えた。
- ・ 近年、事業の評価について取り上げられることが多く、私自身、悩むことがよくある事項ですが、担当の方も変化の途中であるとおっしゃられていたので、皆悩みながら実施していることが分かった。
- ・ 具体的なアドバイス(ガイドラインについてなど)も盛り込まれており、参考になった。
- ・ プロジェクトに直接携わったことがなく、あまり知識はなかったのが、とても勉強になった。
- ・ ODA評価に関する外務省の見解というより、私見が多かったように思われた。
- ・ 今後、JPFでもプログラム評価を行っていく上で、貴重な視点から評価のことを聞くことができた。また参考になる資料も紹介していただくことができた。

(6)「ODA広報」ブリーフィング

- ・ NGOに限らずどの組織も広報の有効な手段を探るために苦労されている様子がよく分かった。

- ・ 広報は、いろいろと課題があるが、日本の国の応援であっても、むずかしいということがよく理解できた。
- ・ NGOと外務省(国)の協働の必要性は話があがっていたが、外務省の広報としては特に取り組みがないのが残念だった。
- ・ 省全体とは別にODA広報班がいらっしやること、またその苦労話などきけて興味深かったです。
- ・ 立場は違っても広報という分野で同じ悩みを知り、活力になりました。また日本の国旗を現地にも協力していることを知ってもらうために、例えばバスなどにはるのかはらないのかについて意見をきくことができよかったですと思います。
- ・ 同じ広報担当として、外務省がODAの広報を具体的にどのように行っているのかを知ることができ有益だった。
- ・ 「広報の重要性、インパクトのあり」について、当センターでもいつも取り組んでいることなので親しみを感じた。「注目してもらうこと。イベントに来てもらうこと。知ってもらうこと。」は業務がうまくいくための大きな1つめの課題に思っている。
- ・ ODA広報の難しさ(国内における)を知った。また、実施する企業・NGO側ももっと宣伝すべきであると感じた。
- ・ 自分自身もN連を通してODAと関わっていながら、ODAの情報を得る手段をそれほど持っていなかったのだと感じました。(TVやメルマガなど)NGO広報とODA広報の違いに関するお話も興味深かったです。
- ・ ODA広報に関する考え方がわかった。外務省としても難しいことだと伺われた。

(7)「官民連携」ブリーフィング

- ・ 受け止める作業にいっぱいになってしまいましたが、時間をかけて消化していきたいです。
- ・ 「官民」との関係がうまくいくとこれまでになかった案を出し合えたり、援助や協力しあえたりする部分があり、私の住む市も大きな課題となっている。これが国際的な範囲でうまくいくように努められていることを知ることができた。
- ・ 「民」に期待されていることがわかった。
- ・ 様々な形の連携があるのだと分かった。また、最新の連携形態そして潮流を知ることができた。
- ・ BOPビジネスの潮流のみならず、PPPとの違いも理解できた。緊急支援で官民連携は難しいが、復興期には非常に重要ではないかと感じた。
- ・ 様々な事例を交えて、官民連携が現在進行形でどんどん拡大している様子がわかりました。
- ・ ボリュームの多さを考えると仕方ないのですが、説明が非常に早くついていけない箇所がありました。ただNGOもうまく協力すれば官民連携に加わることができるかとわかり、新たなアイデアをくださったので、ありがたかったです。
- ・ 「官民連携」の「民」が、今後、民間企業や大学等に注目していることは理解できたが、NGOとしてはそこでどう個性・専門性を強調し、生きのこっていけるのか、難しいと思った。
- ・ 今日の途上国開発において、民間企業の力がいかに求められているのかを知ることができた。今後の団体の企業との連携に今回学んだ知識を活かしていきたい。

(8)「緊急人道支援」ブリーフィング

- ・ マルチ・バイ含め、いろいろなスキームでの実施があり、今後の戦略を考えていくうえでの基礎知識を得ることができて本当に有意義でした。
- ・ 災害が国内・世界中で増えてきている影響もあり、様々な分野から支援されていることを知った。マスコミやメディアでは知られていないことももっともっと国民に知ってもらいたいと更に思えた。自分達がいざ支援を必要とする状況にならないと、きっと実感できない方も多くいると思える。
- ・ 日本政府が実施している緊急人道支援の種類・規模を知ることができた。また、各国連機関の予算状況は興味深かった。
- ・ 災害発生→出動→収束(撤退)までを事例をふまえてお話いただけたらより参考になった気がします。
- ・ それぞれの役割について明確に理解することができました。どのようなながれで支援を行っているのがクリアになりました。
- ・ 歴史がまだ非常に浅い分野というのを、改めて実感した。
- ・ これまで緊急人道支援の分野は比較的なじみが薄い分野だったので、基本的な知識を身につけることができました。
- ・ この分野に対する外務省の考えがわかった。

(9)「JICAの業務・技術協力」ブリーフィング

- ・ JICAが南米移民の支援を実施している点が謎だったが、その理由が分かった。
- ・ ODAの中のJICAの位置づけがわかりました。
- ・ NGO, JICA, 外務省の役割, 関係性を考えさせて頂くことができました。そこからNGOの活動意義, 特徴をまたブラッシュアップしたいです。
- ・ JICAの全体的業務についてわかった。NGOとの連携についても詳しく聞けたらよかった。
- ・ 直接意見としてお伝えしましたが、函館デスクがなくなりとても残念に思っている。若い方やシニア世代で国際ボランティアに興味をもつ方も増えてきているので、その地域での必要性についてもう少し知ってもらいたい。
- ・ 国内においての“市民参加協力事業”について詳しくご説明いただき、大変有益だった。海外での事業において、さらに掘り下げた説明(例えば地域別, 分野別の傾向等)あるとさらによかったと思う。
- ・ 総合的なお話がきけてよかった。
- ・ JICAの全体像に加え、具体的にNGOとして関わりがある部分も詳しく知ることができました。
- ・ JICAの広範に及ぶ業務を包括的に説明いただき、非常によくわかりました。

(10) 「個別」ブリーフィング

- ・ 今後、どのようにJPFの特色, 強みを活かした支援を行っていくのかについて、組織全体での戦略を考える上で、NGO経由, バイ, マルチのスキームだけではなく、女性が輝く日本の実現という総理イニシアティブの話や、資金の流れや獲得のための細かいテクニカルな話も含めて、お二人の方から、詳細に話を聞いて大変有意義でした。お時間を個別にとっていただき、大変ありがとうございました。
- ・ ザンビアで現在行っているHIV/エイズ対策事業をポストMDGsとどのようにリンクさせていくかについて、意見交換ができた。

- ・ ODAの広報担当の方とお話でき、広報業務の中で工夫していることなどをうかがうことができた。スケジュールの変更で時間が短くなってしまい、十分に話を伺えなかったのが残念だった。
- ・ 時間が20分程度しかなく、まだまだ聞き足りませんでした。ただ同じ広報担当として、お話できとても良い時間でした。
- ・ 現在JICAが実施しているBOP事業を総括的に知ることができた。
- ・ 民連室の方と意見交換させて頂き、国際協力という分野で働く意義について考えさせて頂きました。
- ・ この分野(BOPビジネス/官民連携/中小企業支援)の支援スキームが非常に複雑だったので、丁寧な説明をいただけて良かったです。また、様々な事例の舞台裏のお話を聞くことができ、当団体個別の状況についてもご相談できたので、充実していたと思います。

(11) 「分野別アプローチ・MDGs」ブリーフィング

- ・ NGOの立場にも、高い目標をもった活動をするために必要な知識として組み込まれた講義かと思いますが、とてもありがたいと思いました。
- ・ ポストMDGsの議論は関心があるのですが、いろいろと議論が複雑で追いつけていない部分があったので、整理することができました。
- ・ 資料のボリュームさから、お話の濃さをもう少し聞きたかった。
- ・ 世界的規模で考え、身の回りから行動へ移すことを学べた気がします。
- ・ 人間の安全保障、MDGsなど国際的な課題とその取り組み、日本のみならず世界の対応と今後について大変わかりやすく説明いただきました。
- ・ ポストMDGsの具体的な流れが分かった。
- ・ MDGs, 人間の安全保障についてわかった。欲を言えば外務省、政府としてどうしていくのか具体的に聞きたかった。

(12) 模擬案件選定会議の流れ

- ・ 国の資金であること、故に有益な活動にするための議論がある。そのために重要なことが申請書であるということを深く理解し、これから取り組む姿勢に刺激を頂きました。
- ・ 第三者の目で案件選定会議を観察することができた。
- ・ 実際の会議を目の前で見ていく気持ちになった。プロジェクトの持続性が重要となることを改めて知った。
- ・ 体制を守る、質問には完璧に答える、など当たり前のことですが、それができていない団体が多いこと、そして文字だけで伝える技術を磨くことの必要性を実感しました。ただ、文句のつけがたい良い例もとりあげていただけたら、より参考になったかと思います。
- ・ 実際の選定で、何に注目しているのかを見ることができ、おもしろかった。
- ・ どういう点に着目して審査をしているかよくわかった。
- ・ NGO役の方にもものすごく共感を感じながら拝見していましたが、質問のポイントを知ることができた。今後の申請書作成に役に立てたい。
- ・ 案件選定会議は自分の団体しか知らないの、他の案件を民連室の方々がどのようにコメント・注目されているのか、という点を見ることができ勉強になりました。

- ・ 最近の案件選定会議の流れがよく分かり、質問のポイントなども得ることができて大変有意義でした。

(13) 民連室員との意見交換

- ・ 来年度以降のN連のことについて、先行して聞くことができ、また、正直な感想も民連室の方から聞くことができ、貴重な話をいただきました。
- ・ 民連室の方々と実際にお会いし、どのような考えでN連無償資金協力事業に携わっておられるのかを知ることができた。
- ・ 現地プロジェクトにおいては現地NGO、在外機関との連携の必要性を改めて感じました。
- ・ (12)の内容についてもっと深いとこに着目してお話してくれたのでとても印象的だった。
- ・ 今後のN連における書類の流れなどが分かった。
- ・ 日頃は案件ベースで民連室の方とお話させていただいておりますが、個別の案件を超えた全体的な意見や、NGOに対する要望をうかがうことができ、勉強させていただきました。
- ・ “N連を通ること＝自団体の活動発展”だけでなく“ODAを使って政策の一端を担う”という視点をきちんと持ち続けたいと思いました。
- ・ 時間が短くなってしまったので、質問するのをためらってしまったのが残念でしたが、そのかわり本日石兼局長にお会いし、日本の外務省の国際協力局のトップの方が、とてもすばらしいお考えをお持ちとわかり、嬉しくなりました。ありがとうございました。
- ・ 民連室がNGOに求めていることはわかったが、それまでのプログラムで繰り返し聞いていたので、このセッションでは他の話を聞きたかった。

1. 本研修プログラムを通じて外務省に対する知識・理解が深まったと思いますか。

- a. 非常に深まった …10名
- b. 深まった …0名
- c. 特に変化なし …0名

2. プログラム期間の妥当性

- a. 長い …0名
- b. 適当 …8名
- c. 短い …2名

3. 上記3. で a. または c. と答えた場合、その理由及び適当な期間

- ・ 質問時間が短く感じたが、それぞれの講義時間については適切だったと思う。
- ・ もう半日ほどあれば…と思いました。幾つかのプログラムでは、時間の制約があり、質疑応答の時間が短かったと思った。

4. プログラム実施時期についてコメントがあればご記入ください。

- ・ 確かに年度末に向けて、皆多忙であると思われるが、逆にこの時期に行われることで、来年度のことも先行して聞くことができ、良かったです。
- ・ 年度末時期は忙しいことが多いため、違う時期に実施することが可能であればありがたいです。
- ・ ちょうどよい。
- ・ 特に時期にこだわりはないです。

5. 本プログラムで得た知識を貴団体内で共有されますか。また、どのような方法で共有されますか。

- ・ 共有します。資料を見せながら、覚えている限り担当者に話しまくる。
- ・ 参加報告書を回覧。
- ・ 研修でいただいた資料の共有、メール・口頭での報告。
- ・ 本団体では今回業務あつかいになっていないので、共有の機会がないのですが、よい資料をたくさんいただいたので、興味のある方には資料を提供しようと思います。
- ・ 共有する。ミーティングでのフィードバックや研修資料の回覧。
- ・ 定例ミーティング、職員研修というのを行っており、そこで共有したいと考えています。
- ・ 資料の共有(内部に限り)および参加報告の提出、今後のシリア案件プログラム全体のあり方への反映。
- ・ 共有する。会議での報告、報告書・資料回覧。
- ・ 共有いたします。団体内のミーティング時での報告と、理事長への報告書の提出により共有します。
- ・ 資料一式を回覧。必要な箇所はMTGで共有。報告書作成、回覧。

6. 本研修プログラムへの参加が、所属団体にとって有益であった点があればご記入ください。

- ・ N連無償資金協力事業申請書の記入方法を詳しく知ることができた点。また、その事業の組み立て方

を知った点。

- ・ お世話になっている事業への理解が深まった。国際協力についての知識が高まったことにより、啓蒙活動の質向上につながる。
- ・ 当団体としては他団体への情報提供、活動支援が重要なので、特に国際協力に従事する団体に、外務省のNGO支援スキームの情報をつないでいきたい。ODAなどの知識も、NGO相談員業務に活かしたい。
- ・ ODA・JICA事業・民連室業務などの基礎的知識を改めて学べた点。N連策定の際におさえるべきポイントがわかった。外務省の方と交流の時間をもつことができ、より理解と興味が深まった。
- ・ 毎々お世話になっている民連室のみならず、外務省という組織全体を理解し、個別の資金スキームへのアプローチなど多岐にまで有益性は及ぶ。
- ・ 知らなかった事がたくさんあったので、私にとっても当団体にとっても知識を深める良い機会となった。
- ・ 外務省との協力の可能性(N連や相談員制度以外で)
- ・ 私自身は有益であり、本来、フィードバックしたいところですが、団体の方では同じ考えではない様なので、今後の希望者が業務あつかいで参加できるよう、働きかけをしたいと思います。

7. 今後の研修プログラムにおいて希望する具体的な研修内容。

- ・ 緊急人道支援の内容の拡充。
- ・ グループまたは個人作業、発表など、参加者が汗をかくようなワークショップ。
- ・ 実際の仕事場見学など可能であれば見てみたい。
- ・ 実践型の研修。例えば、模擬審査に参加NGOが受けてみるなど。
- ・ 外務省(日本政府)がNGOに期待する点、どのようなバランスでお互いが仕事していけばよいのか、今後どのような広報支援が期待できるのかなどを話し合えるとよいかと思いました。

8. 本研修プログラム改善のための提言・要望

- ・ 一番最初に自己紹介の時間を設けて頂けると、その後の質疑応答もしやすい雰囲気になるかと思います。実施中にFBに投稿→お互いでシェアなどでできれば、いろんな一般の方にこの取り組みを広めることができたと思います。
- ・ 可能であれば、参加型のプログラムを盛り込む。
- ・ 2.5日間のプログラムにされるのはいかがですか。
- ・ 個別ブリーフィングの時間をもう少し頂ければ、より具体的な団体の活動につなげるつなげるためのご相談ができるかと思います。
- ・ 事前に(募集の段階で)スケジュール提示がなく、遠方の団体としては予定が立てづらかった。研修の詳細情報を始めに知らせていただけるといいと思う。
- ・ 事前に資料を頂ければ、読んでから参加させて頂く方が受け止めやすいように感じた。
- ・ 座学がやや多いように感じるので、何か作業のようなものが組み込まれると良いとおもいます。また、資料はもっと少なくともよいと思います(特にウェブサイトで調べられるものは省略するなど)。
- ・ アンケートは1日目終了時、2日目終了時で分けた方が、具体的コメントを書ける。懇親会は1日目にしていただくと、遠方組も参加できる。研修の周知期間をもっと長くする。

- ・ 資料がとても充実しているので、いっそ冊子になっていてホームページからDLできればおもしろいかと思いました。

9. NGOと外務省の間での人事交流について、どのような形式、期間などがあればよいと考えますか。具体的なアイデアがあれば記入して下さい。

- ・ NGOの直接コミュニティに裨益する事業実施のあり方は、短期間であっても、日本のNGOについてのみならず、理解が深まり良いかもしれない。互いの待遇は保障され、もどる場所を確保した上で、2年程度の人事交流。
- ・ 企業連携、官民連携の一つとして、外務省が審査したNGO団体と企業他民間専門機関とのマッチング会(就職面接のような感じ)があると、おもしろいのではないかと思います。
- ・ NGO事務所にも訪問して頂きたい。NGO・外務省という立場から話す国際協力イベントを地方でも。
- ・ このような研修を、地方に出張して実施いただくことは可能ですか？中間支援組織として、情報は伝えることができますが、直接実施いただいた方がよくわかると思うので。

以上